



# 通信



VOL.15

令和2年11月1日

作成：長岡 正宏

自分と相手との境界線をなくそう！

## 道心探求

世阿弥の「風姿花伝」から有名な言葉を三つ紹介する。

・「初心忘るべからず」、「初心」について観世清和氏は、「物事を始めた時の初々しい気持ちという意味ではなく、己の技量の未熟さであり、失敗のことを指す」という。自分が未熟であるという自覚を忘れて、そこに安住してしまえば、芸は一步も上達しなくなる。つまり世阿弥は慢心を強く戒めているのである。

・「上手は下手の手本、下手は上手の手本」、芸を盗むということは、上手い人の芸も下手な人の芸も、しっかりと自分の目で見て、なぜ上手なのか、なぜ下手なのかを分析し自分の芸に生かすということである。

・「時分(じぶん)の花より誠の花」、時分の花とは、若さが放つ花であり、そういう花は時とともに褪せる。修養を重ねて咲く花が誠の花であり、年を経ることに美しさを増すということである。

道を究めるには、不断の向上心が必要であるということだろう。約六百年前に書かれた「風姿花伝」は、道を進む人の心得になる。現代の我々にも大変参考となることが多くある。一読を勧める。

※解説は「致知」十月号より参照

## 【木剣を持って自主稽古しよう！ ～四方突き～】

切り下ろしはすべて右半身。身体を切り返して左半身で突く！④⑥⑧⑩は突きの状態。写真が小さくて申し訳ない。拡大して見て頂きたい。



## ～ワンポイントアドバイス～

・切り返しでの左半身の突きの場合左肘を体につけて突く。腕で突くのではなく体で突くためだ！  
右半身から相手の剣をくぐるように意識して左半身で突く！



右での切り下ろし

左で突く



天王平より本宮山を望む



若宮神社(京都府綾部市)

合気の旅(開祖の修行の地へ)  
開祖は大正9年に京都府綾部の本宮山麓に「植芝塾」を開いた。本宮山は開祖が修行された地でもある。植芝盛平伝によると「夜になると、本宮山の山中に適当な場所をえらび、真槍やたんぼ槍、杖、真剣や木刀などをふりかざし、文字どおり血のじむ練磨研究に三昧した」とある。現在、本宮山は大本教の禁足地になっており入ることはできない。残念だ。また、植芝塾近くの若宮神社でも修行されたといわれている。長い階段を上った先にある境内は誰もいなくて静かだった。目を閉じていると開祖の甲高い声が聞こえてきた。きつと、今でも修行されているのだろう。

## ～開祖の言葉～

合気道は世界家族としての和合であります。即ち地上天国完成のご奉公であります。

「武産合気」より

